

国際理解講座「学ぶということ～大学の講座から世界を見る」

7月7日（金）6・7校時目に福島大学、宇都宮大学から5名の講師をお呼びし講演会が行われました。

倫理学・実践哲学、社会学・カルチュラルスタディー、西洋経済史・ドイツ農業史、グローバル教育・NPO・国際協力、東南アジア論・タイ都市社会学の5つの講座に分かれ3年生を対象に講演していただきました。

A 講座：小野原 雅夫 氏 福島大学 人間発達文化学類（教授）



18世紀ドイツの哲学者カントの研究を行っています。また、現代における平和論や教育のありかた、さらには高等教育はどうあるべきかについての研究も行っています。また、震災以降毎月1回「てつがくカフェ@ふくしま」を開催しており、一般市民の方々と共に「正義とは何か?」「体罰としつけはどうちがうのか?」など、哲学的・倫理学的問題について語り合っています。専門用語は用いずに中学生から年配の方まで誰もが対等な立場で哲学対話を楽しんでいます。

B 講座：川端 浩平 氏 福島大学 行政政策学類（准教授）

米・AUSでの海外留学を経て、自分の出身地など身近な世界の風景やそこで生きる人々を対象としたフィールドワークや研究を行ってきました。主に在日コリアンの織者たちのフィールドワークから、地方都市の多文化化の現状や課題について研究調査するとともに、現代美術家や映像作家らと共にイベントを行ってきました。ジモト（地元）という視座から、人々や風景を再発見することを通じて、地域社会をより豊かに想像する力を育むことが重要だと思います。



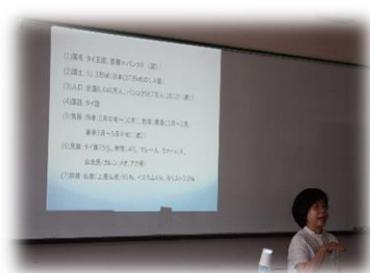
C 講座：菊池 智裕 氏 福島大学 経済経営学類（准教授）



現代ヨーロッパの経済社会がどのような過程を経て形成されたのか、20世紀ドイツを中心として、比較史の視角を重視しながら研究しています。具体的には、ドイツの公文書館で、農民や役人、時にはスパイなど、様々な立場の人々が書き残した資料を収集し研究を行ってきました。私たちとは異なる経済制度・社会文化の歴史的経験は、私たち自身の現在を理解する手掛かりにもなると考えています。

D 講座：マリー ケオマノータム 氏 宇都宮大学 国際学部（教授）

国籍や民族などの異なる人々が、互いの社会的・文化的違いを認めあい、地域の構成員として共に生きてゆくことを可能とする「多文化共生」を実現するために、必要な知識や能力を学修します。多文化共生に関する専門的な知識・技術に加えて、チャレンジ精神や行動力等を兼ね備えた「グローバルな実践力」を持った人材を育成します。タイのバンコクを中心に、現地でのフィールドワークを積極的に行い、新たな問題状況と政策動向を常に視野に入れた、実践的な研究をめざしています。



E 講座：湯本 浩之 氏 宇都宮大学 留学生・国際交流センター（准教授）



地球社会が直面する開発や環境、人権や平和、文化や福祉、そしてエネルギーやテクノロジーなどに関する諸問題の解決を地球的課題（Global Issues）としてとらえ、こうした課題を「知り」、その原因や解決策を「考え」、そして地域や日常の中で「行動」していくことを実践しています。授業では、開発教育やグローバル教育の知見や経験を基礎に、ワークショップやグループワークなどの参加型学習（アクティブ・ラーニング）の手法を活用して、学生相互や学生と教員との対話や議論を重視しています。